

2022年12月  
**2022年10月期**  
**決算説明資料**



**株式会社オービス**

**東証STD**

**証券コード：7827**

# 目次

## 01 会社概要

## 02 2022年10月期決算概要

## 03 2023年10月期決算見通し

## 04 新中期経営計画 「NEXT STEP 10」

## 05 株主還元・配当方針





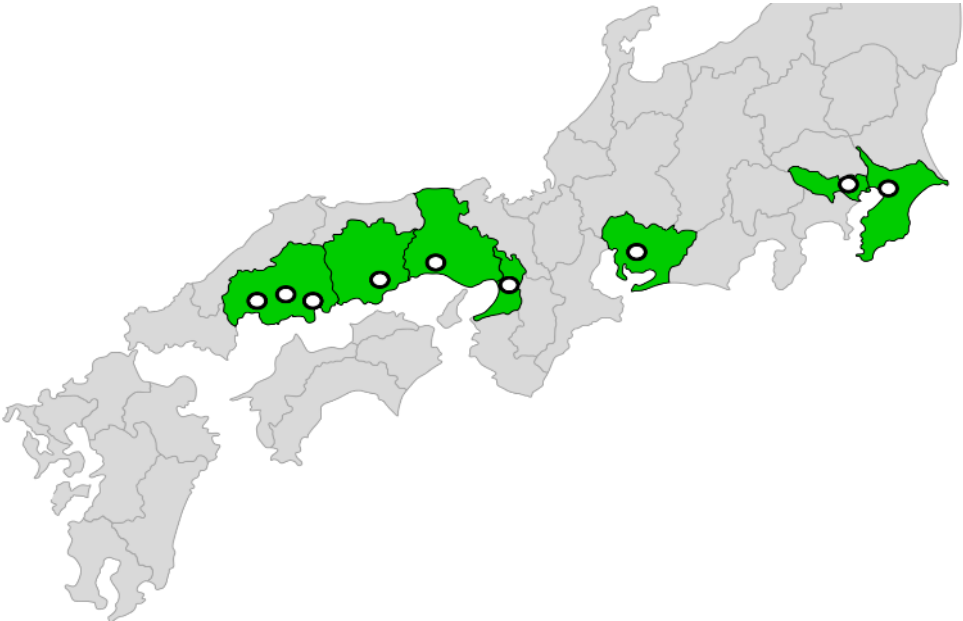
# 01 会社概要



# 会社概要：木材事業を主力に5つの事業を展開

## ◆主力の木材事業は、梱包用木材の製造・販売で国内シェアNo. 1

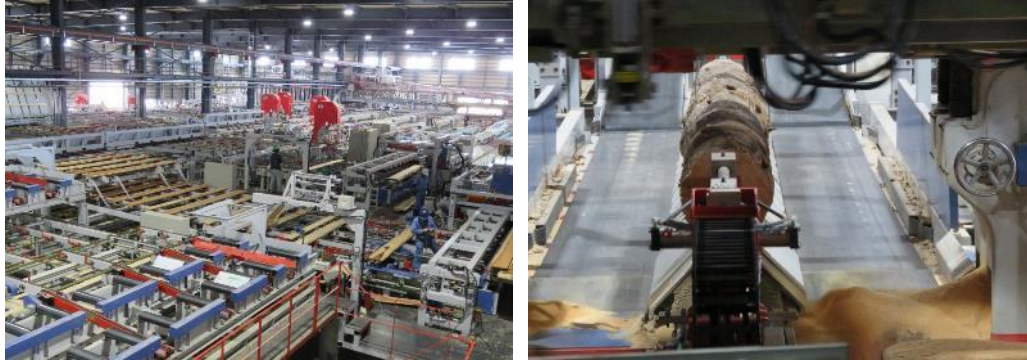
①木材 ②ハウス・エコ ③太陽光発電売電 ④ライフクリエイト ⑤不動産

会社名	株式会社オービス (ORVIS CORPORATION)	事業拠点 ● 木材事業・・・東京・名古屋・姫路・福山 ● ハウス・エコ事業・・・東京・千葉・名古屋 ・大阪・岡山・福山・豊栄・広島 
本社所在地	広島県福山市松永町六丁目10番1号	
設立	1959年11月	
代表取締役	中浜 勇治 (なかはま ゆうじ)	
資本金	6億9500万円	
従業員数	189名 (2022年10月末現在)	
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場 (証券コード：7827)	

# 事業内容：木材事業、ハウス・エコ事業を軸に展開

## 木材事業

ニュージーランド松及び国産杉を原材料とした梱包用材等の製造・販売、カラ松・杉・桧等の仕入・販売



## ハウス・エコ事業

プレハブハウスの製造・販売、仮設建物のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負



## 太陽光発電売電事業

自然エネルギー等による発電（売電）事業



- ・3県17ヶ所に設置
- ・出力規模約13MW



## ライフクリエイト事業

フィットネスクラブ（広島県福山市）  
及びゴルフ場の運営（山口県周南市）



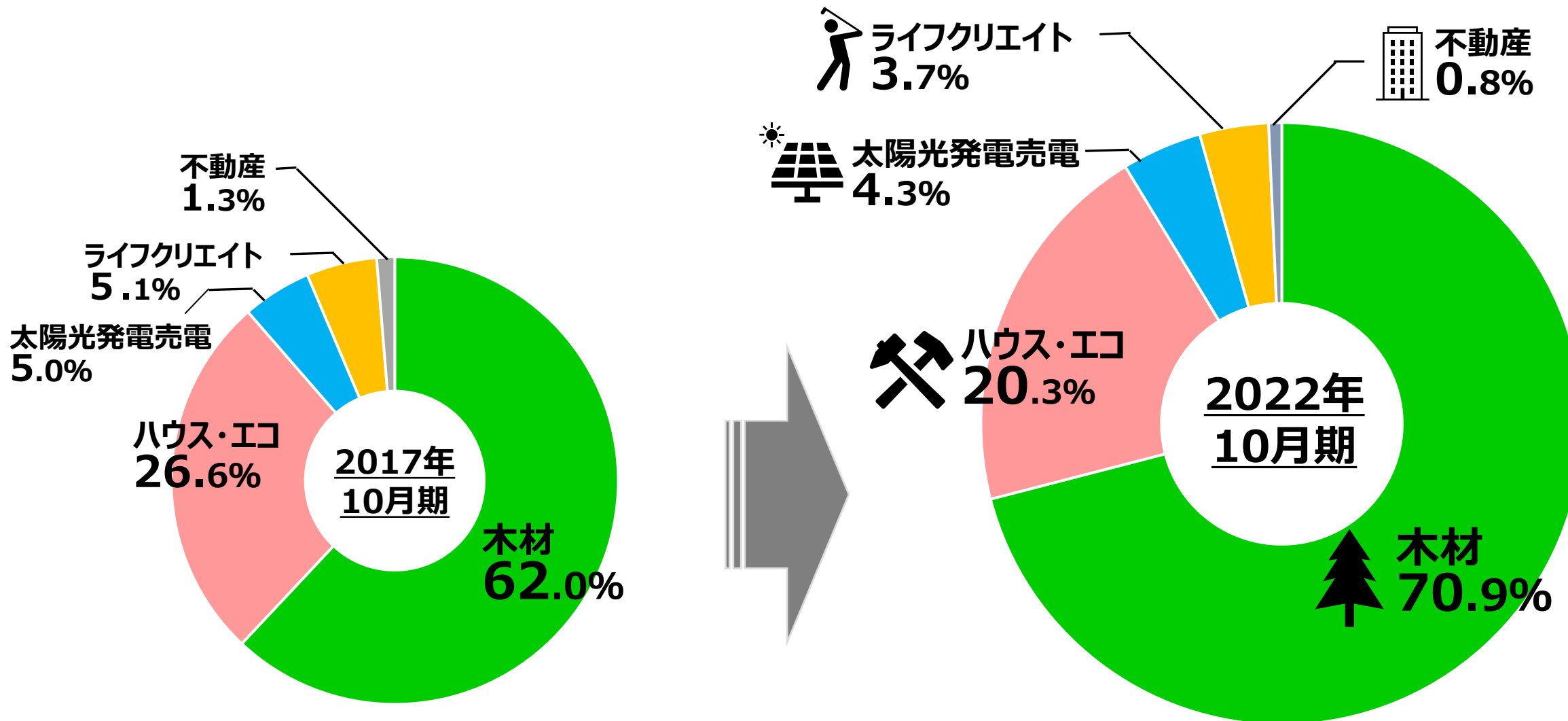
## 不動産事業

不動産の賃貸（広島県広島市1棟、福山市3棟）



# 売上高構成比

◆主力の木材事業とハウス・エコ事業で売上高の約9割を占める



# 主な沿革：木材事業からプレハブ事業へと展開、木材事業は工場を更新

**1959年11月 有限会社中浜材木店を設立**

1962年05月 広島県世羅郡世羅西町（現世羅町）に製材工場を建設

1968年03月 ニュージーランド松の製材工場建設、プレハブ部材の生産開始

1971年06月 広島県福山市に製材工場移転、プレハブハウス完成品の販売開始

**1992年04月 株式会社オービスに商号変更**

**2006年09月 ジャスダック証券取引所に上場**

2008年08月 木材事業姫路工場稼働開始

2010年02月 太陽光発電システム等の施工・販売開始

2018年06月 木材事業福山工場竣工、稼働開始

2022年04月 東京証券取引所市場再編に伴い、スタンダード市場に上場



プレハブハウスのカラオケボックス



当社で所有していた木材運搬船



当社施工の太陽光発電システム



木材事業福山工場

## 社名の由来



「みなぎる活力」で「未来を創造」する

ORVIS（オービス）・・・ラテン語の造語

origao : 創設者・出発点

vis : パワー・効力

という意味のラテン語を組み合わせた当社の企業テーマ

## 経営理念

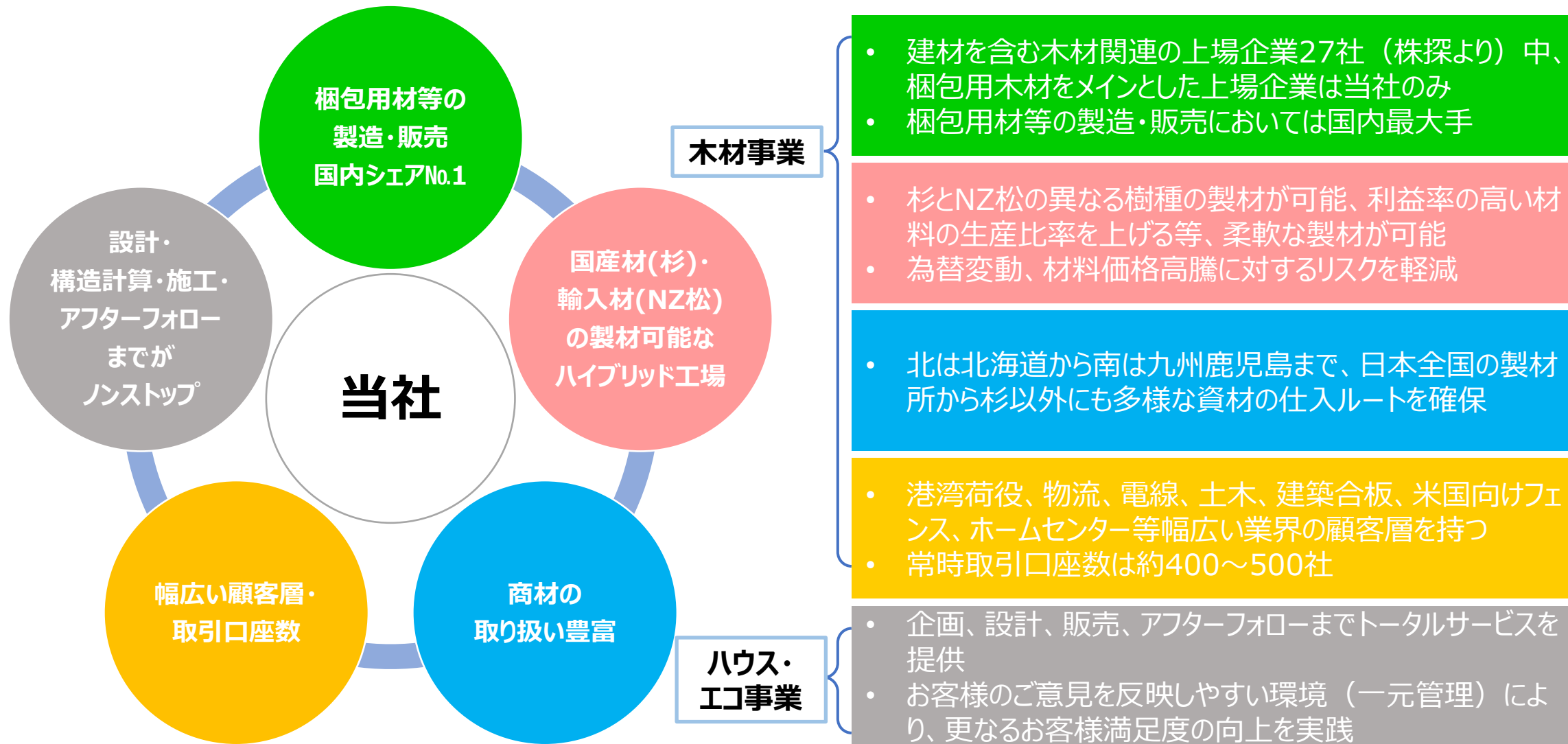
顧客満足・社員満足

お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様へ利益を還元していく



# 当社の主要事業の特徴：主に木材事業、ハウス・エコ事業を展開

## ◆ 梱包用木材の製造・販売＋一般建築、プレハブハウスの製造・販売



# 当社の強みを活かしたSDGsへの貢献

## ◆持続可能な森林資源の活用の実現に貢献

当社の強み

直径100cm程度の大径木を製材する設備

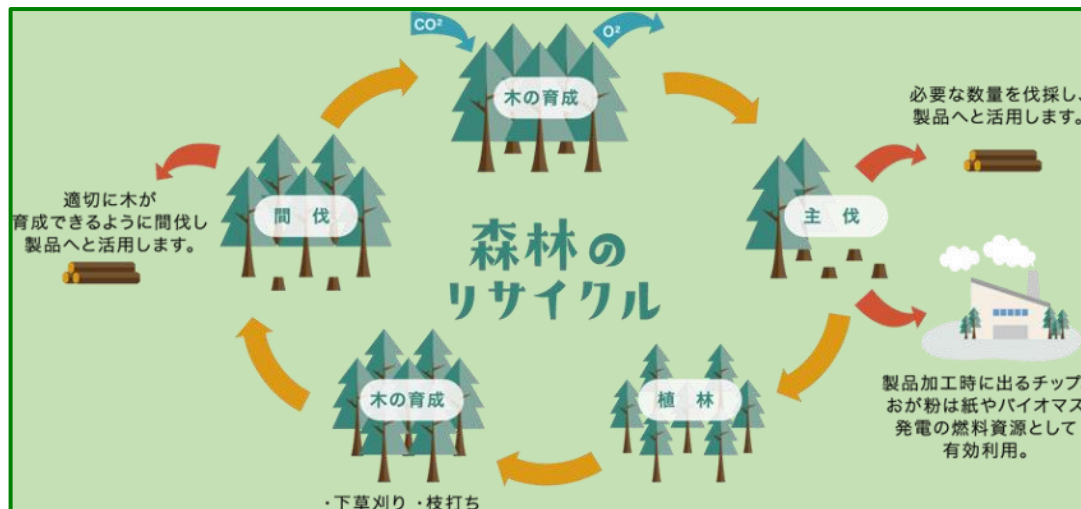
製材が困難な直径70cm超の木材を積極的に受入  
業務効率の改善に加え、森林の循環サイクル促進に貢献

国産杉の生産によりCO2吸収に貢献

CO2吸収量が減少した樹齢の高い国産杉を使用  
CO2吸収の活発な若木を植林、育成のサイクルへ

循環サイクルに沿った合法木材の使用

伐採、植林、育成の正しいサイクルで伐採されたコンプライアンス遵守の合法木材を取り扱い、森林を持続可能資源へ



6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーもみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	

**国産杉2022年度仕入量**

本数：248,979本（長4m）

材積：135,413m<sup>3</sup>

平均径：36.8cm（直径）



# 当社の強み：梱包用木材市場でNo. 1

◆当社は梱包用木材の製造・販売でシェア約17%、深耕開拓により更にシェア拡大を図る

◆主力市場の梱包用木材でのマーケットシェア拡大を図りつつ、建築合板等向けへの継続供給を維持

国内シェア  
No. 1

梱包用木材市場（木質系）

市場規模**450億円**

※当社調べ（推定値）

- 輸出する商品や機材を守るための梱包材のほか、パレット材、電線ドラム材等の材料として使用
- 木材の表面仕上げ等を行わず、無垢材の状態出荷
- 梱包対象によって長さ・厚み・幅が異なり、当社で扱う製品サイズは800種類以上（多明細・小ロット）
- **JAS認定は不要（品質基準無）**



【マーケットの特徴】

- 事業社数少ない  
（中小零細企業が多く、関西より以西に多く存在）
- **当社以外、全て未上場企業**

建材市場

市場規模**19,314億円**

※（出所）富士経済 住宅設備・建材の2021年度国内市場調査より  
内装材（木質・非木質）、断熱、外部建具、外装材及びエクステリアの合計値

- フローリング材、収納部材、階段ユニット、室内ドア等、対象品目は多岐に渡る
- 木材の乾燥や表面仕上げ等が必要
- 建築基準法などにより柱、梁などの製品サイズは限定（少明細・大ロット）
- 主要な建築材料には**JAS認定が必要（品質基準有）**



【マーケットの特徴】

- 事業社数多い（大小様々な会社が全国に存在）
- **多くの上場企業あり**

# 木材事業：国内有数の大型ハイブリッド工場設備

- ◆一般的な工場・・・大径材（直径70<sup>ㇿ</sup>超）の製材は対応できない
- ・・・特性の異なる樹種毎にそれぞれ機械が必要

▶ 当社工場は対応可能



## 国産杉原木の仕入れ径級の上限撤廃

- 大径化する国産材（杉）事情に対応した仕入れの実施
- 大径材（直径70<sup>ㇿ</sup>超）の仕分けが不要な受け入れ先として杉の集荷に注力
- 大径材の製材により歩留率及び生産効率向上



## 国産材（杉）と輸入材（NZ松）が製材可能なハイブリッド機械の導入

- 特性の異なる樹種を製材可能な大型工場は国内初の試み
- 国産材（杉）と輸入材（NZ松）の製材が可能で様々なリスク（ロックダウンによる原木調達遅れ、急激な為替変動、原材料価格の高騰等）を軽減



## コンピュータスキャンとオートメーション化

- 一本一本異なった形状の原木から、全てコンピュータがスキャンして読み取りを行い、最良の木取りパターンを指令して製材ライン上を流れる
- 短納期を実現、多品種・小ロットの生産にも対応可能
- 単一工場における国内最高レベルの生産量を誇る

# 木材事業：仕入～製品化 ー木材を余すことなく活用する業務ノウハウー

## 木材事業の流れ



原木仕入

製材

製品

出荷



チップ・おが粉

家畜敷料



## 国産杉 製品用途



小型機械梱包

パレット



建築材(ラミ等)

米国向けフェンス

## NZ松 製品用途



大型機械梱包

パレット

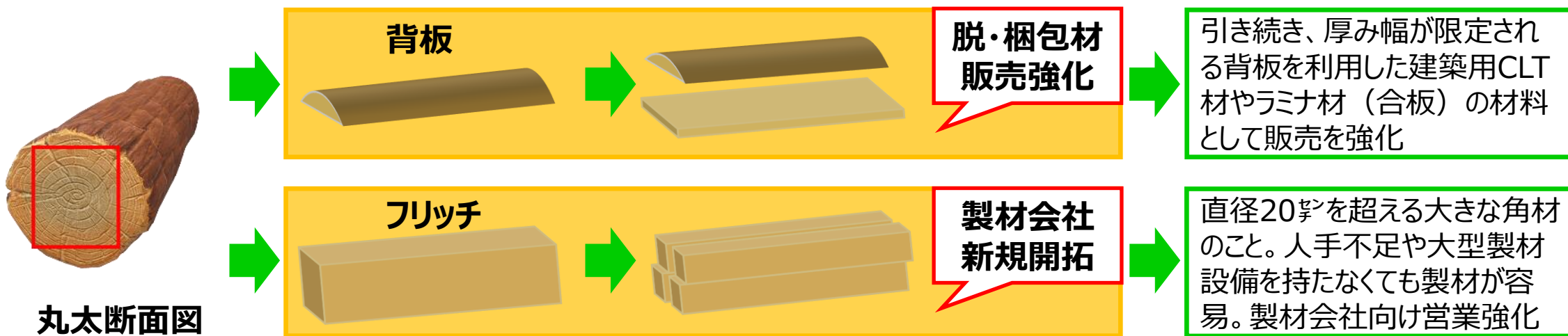


電線ドラム

土留め板

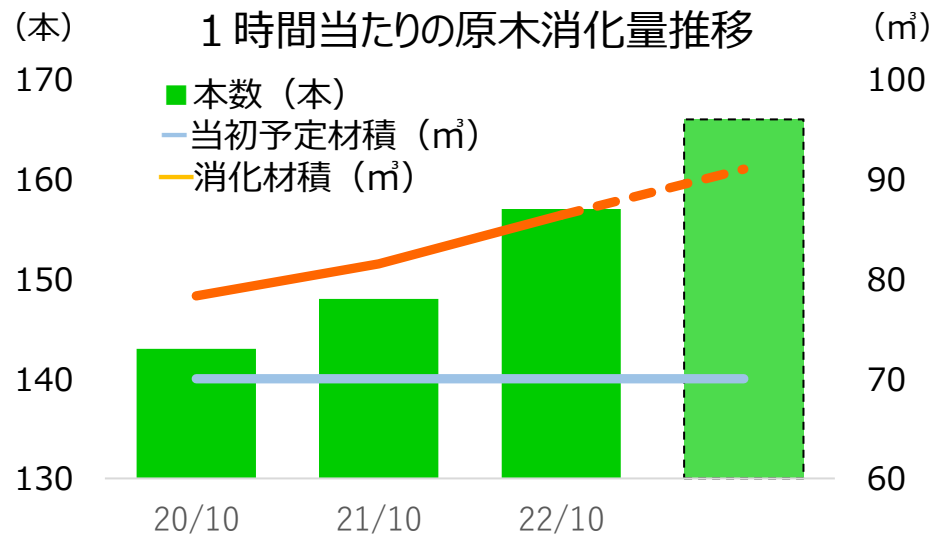
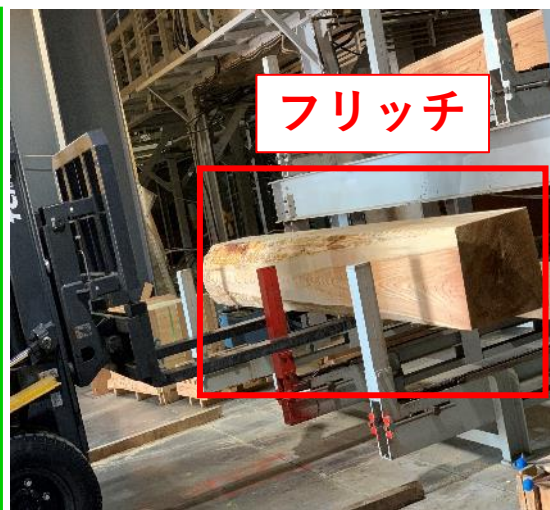
# 木材事業：需要拡大にも生産効率化で対応可能

- ◆ 背板及びフリッチの販売強化による受注量の確保、継続して工場の高い稼働率を維持
- ◆ 設備投資による更なる生産効率の向上を目指す→ 1時間当たりの生産量5%UPを目標



## 生産効率向上に向けた取り組み

- ◆ 設備投資の実施  
製材ライン上の渋滞解消
- ◆ 熟練オペレーターによる  
製材技術の伝承  
歩留率向上のための木取り方法の指導を継続



# ハウス・エコ事業の強み：規格品では対応できない特注品に特化

## ◆ プレハブハウスから工場や大型倉庫の「在来重量鋼建築」まで施工可能



### 工場生産のウェイトが高いプレハブ建築

- 在来工法と比べて建築費用が安価。部材が規格化されているため、使用部材の工場大量生産が可能、工期も短く大幅なコストカットが可能
- 規格部材を用いたリースの活用により、店舗や事務所等のフレキシブルな設置・撤去が可能



### 確かな技術力

- 半世紀にわたる経験と自社開発製品で高い強度を持つ構造体を実現
- 耐久性や柔軟なデザインに対応できるシステム建築や在来工法にも対応可能
- 一級建築士等の有資格者や主任技術者が36名在籍。設計業務から工事施工まで一貫した受注体制を確立



### 部材の直接仕入れとアフターサービス

- 太陽光発電パネルやパワーコンディショナ等の部材を海外を含む多数のメーカーから直接仕入れが可能なコネクションを持つ
- 太陽光発電設備の施工が広範囲で可能
- 自社でメンテナンス部門を持ち、販売後のアフターサービスの体制を確立

# ハウス・エコ事業の強化策：Mグレード認定工場の取得①

## ◆ 設計から引渡しまでオービス1社で完結、Mグレード取得により売上増・利幅増を実現

2025年10月期認定工場取得予定

Mグレード

建築規模：制限なし  
延床面積：制限なし  
高さ：制限なし



## Grade Up

現状認定工場取得グレード

Rグレード

建築規模：5階以下  
延床面積：3,000㎡以下  
高さ：20m以下



## 差別化point

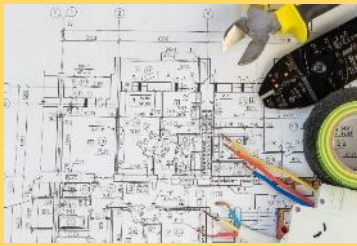
- 大型物件に対応、広々とした大きな空間作りが可能
- 工期短縮、施工主との窓口も一つ・変更や相談もスムーズ
- 鉄骨加工の内製化によるコスト低減
- 競争力のある新製品開発への取組み

設計事務所

鉄骨加工業者

施工業者

引渡し



設計から鉄骨製作、組立までの一元管理を行い、より高い品質の製品・サービスを提供します

オービス

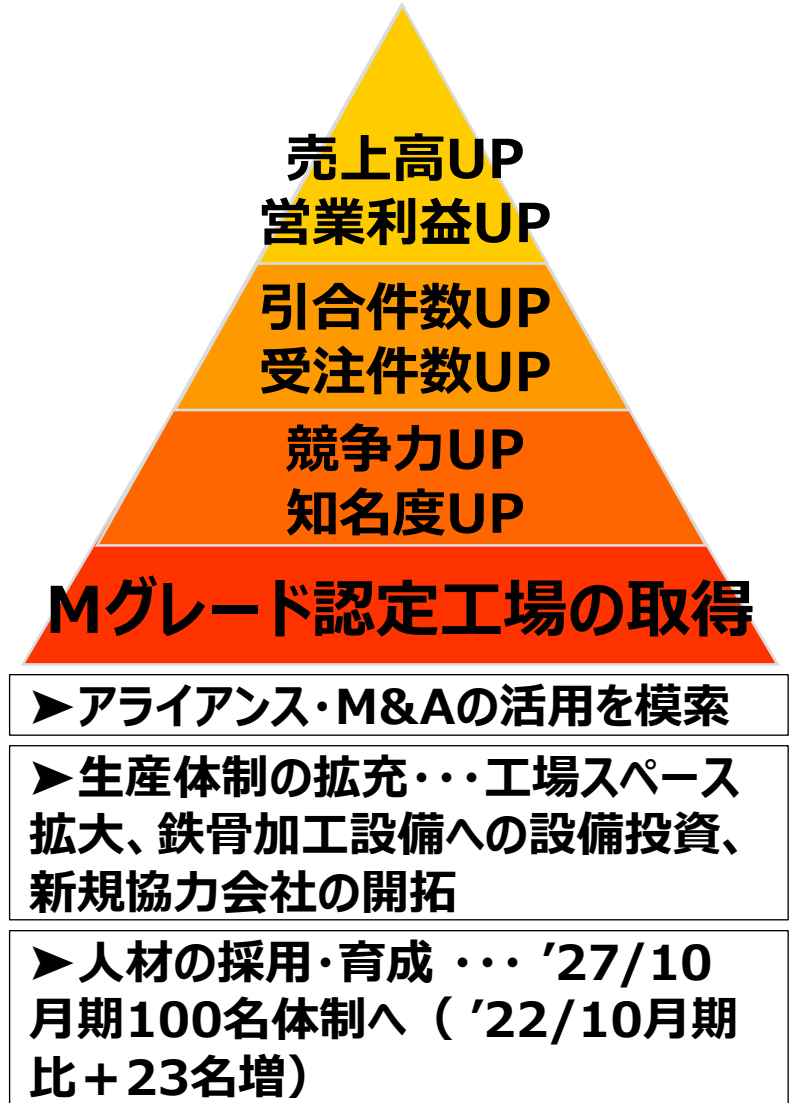
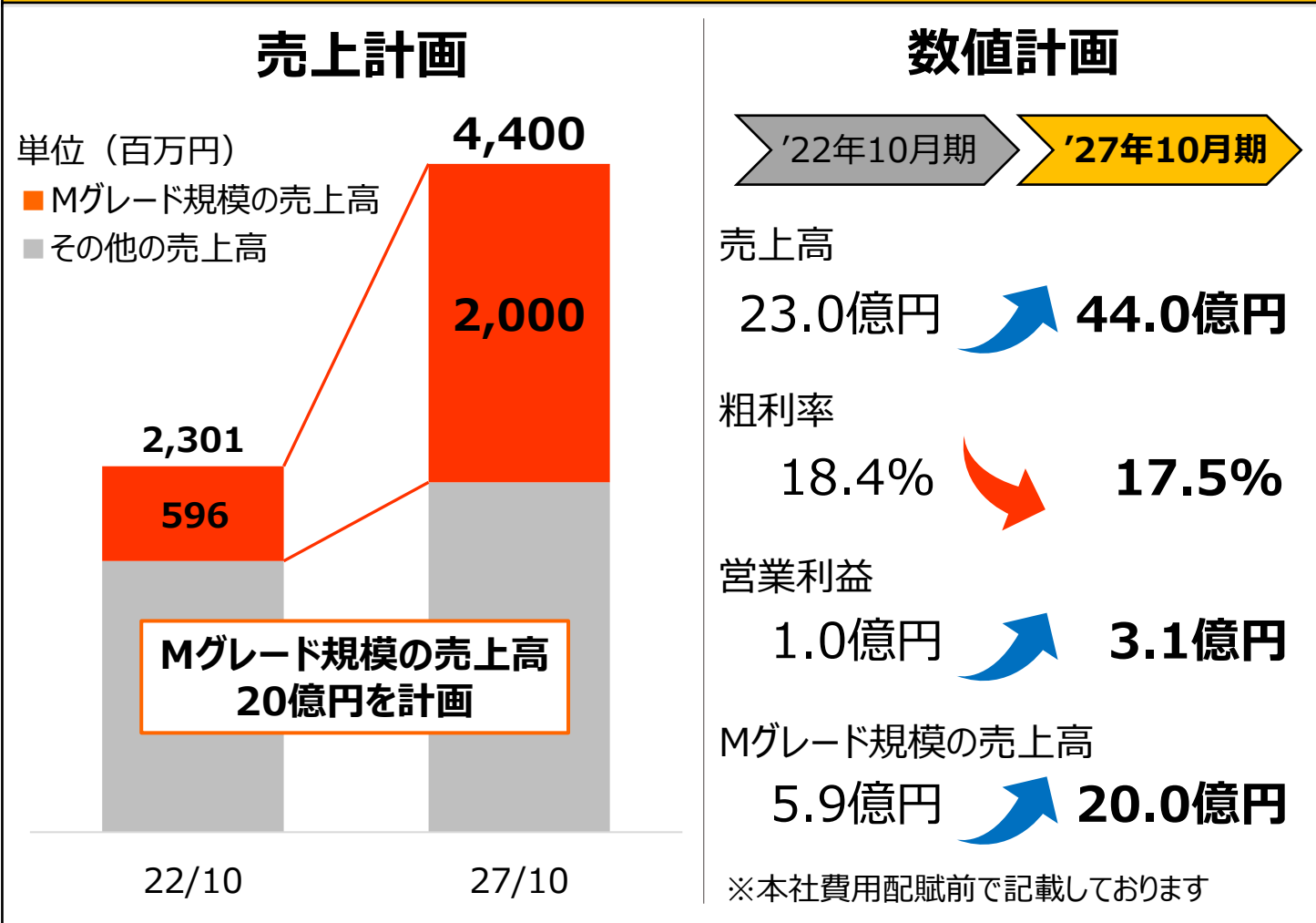
引渡し



# ハウス・エコ事業の強化策：Mグレード認定工場の取得②

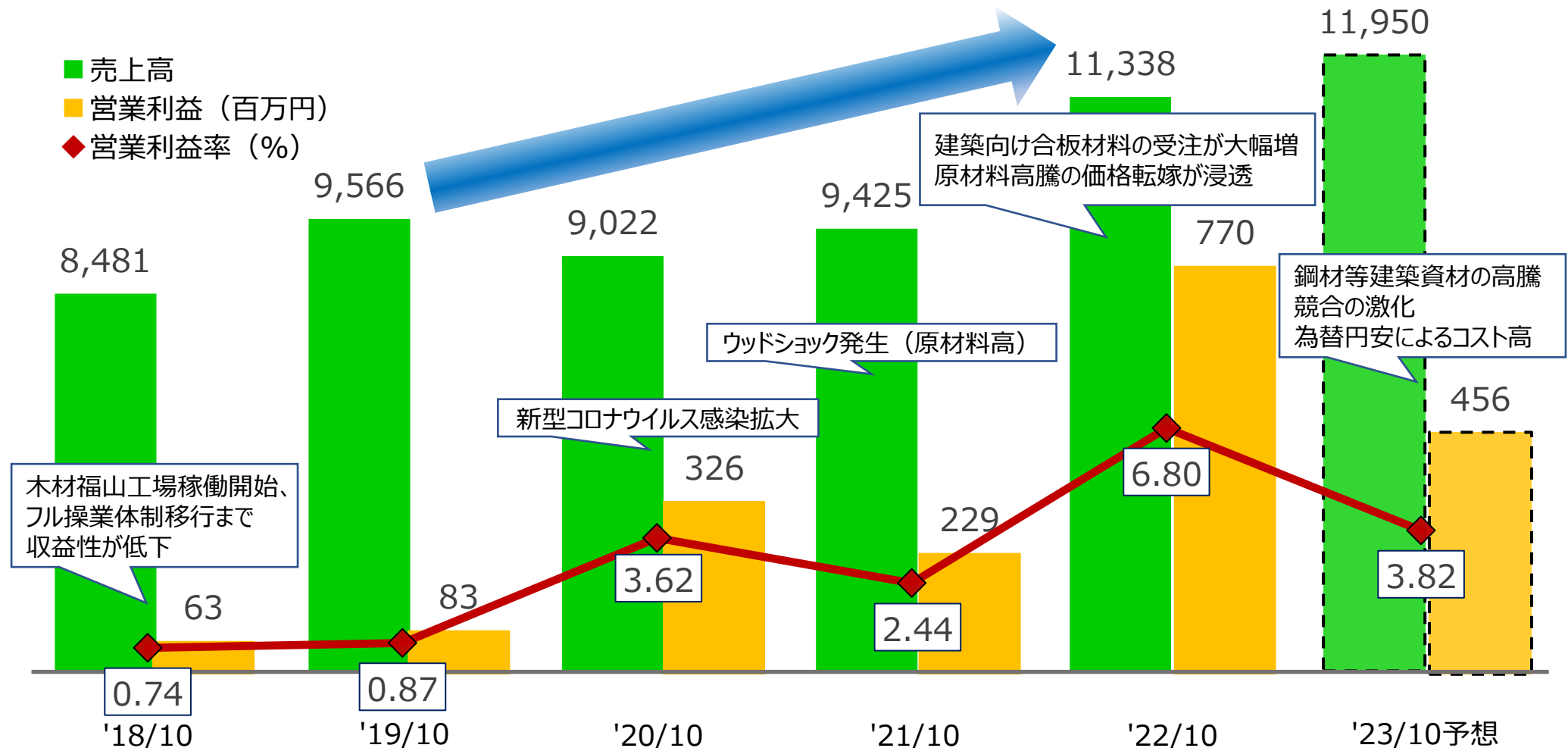
◆ Mグレード認定工場の取得により、粗利率を維持しながら売上高91.2%増を計画

## Mグレード認定工場取得による売上・数値計画



# 業績動向推移：木材事業の堅調もあり、業績は上昇基調

- ◆2022年10月期において売上高（上場後）、営業利益とも過去最高を更新
- ◆福山工場は高い稼働率を維持、ウッドショックによる原材料高は販売価格への転嫁を進める





## 02 2022年10月期決算概要



# 2022年10月期決算概要：増収、当初予想を大きく上回る利益

- ◆売上高：11,338百万円 木材事業セグメントにおいて、過去最高の売上高を計上
- ◆営業利益：770百万円 木材事業が牽引

単位（百万円）

	2021年10月期 実績	2022年10月期実績		2022年10月期 期初業績予想
		金額	前期比（%）	
売上高	9,425	11,338	120.3	11,266
売上総利益	1,511	2,108	139.6	1,759
販売費及び一般管理費	1,281	1,338	104.4	1,347
営業利益	229	770	335.6	412
経常利益	238	792	332.5	399
当期純利益	93	541	578.6	264
1株当たり当期純利益	53.73円	309.51円	576.0	151.29円

# 2022年10月期決算概要

主な増加要因

木材

- 原木消化量194,054m<sup>3</sup>・・・前期比109.1%
- 製品出荷量116,102m<sup>3</sup>・・・前期比107.6%
- 1 m<sup>3</sup>当たり平均製品販売価格  
+ 7,385円・・・前期比121.1%
- 物件の大型化（1億円超の物件）  
・・・'21/10: 0件、'22/10: 3件

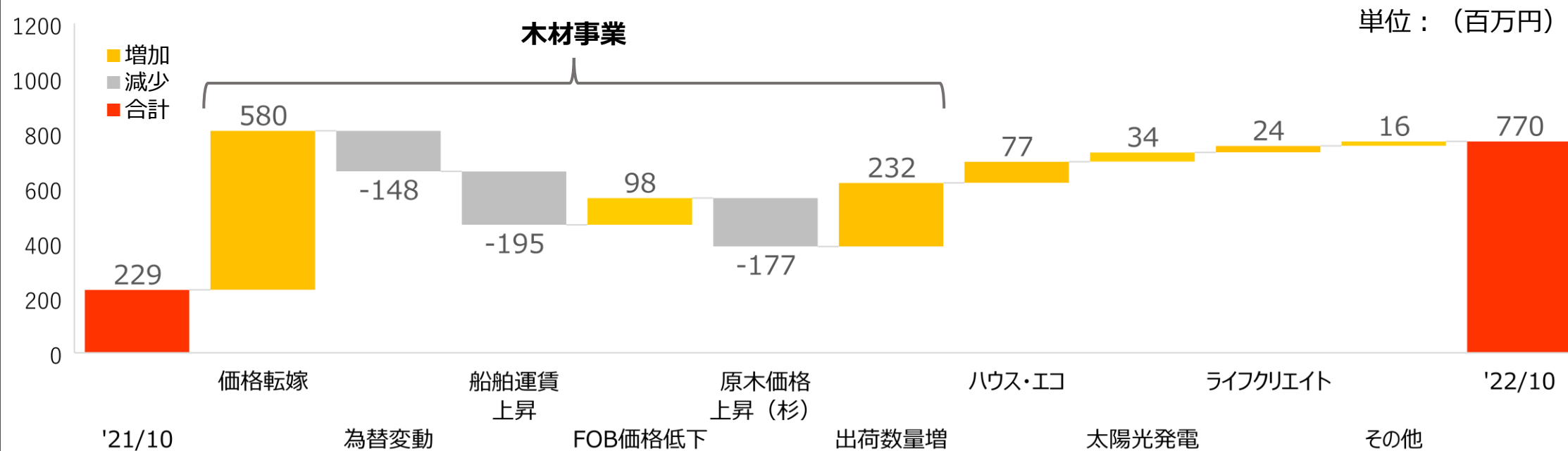
ハウス・エコ

- 為替円安 .....前期比110.7%
- 船舶運賃上昇 .....前期比160.1%
- 木材（杉）価格の上昇・・・前期比113.2%

木材

主な減少要因

## 営業利益の増減要因



# 事業別増減分析（前期比）

◆売上高：11,338百万円 木材事業でウッドショックによる原材料価格高騰分の販売価格転嫁が進む

◆営業利益：770百万円 価格転嫁に加え、木材福山工場が高い稼働率を維持。原価低減に寄与

単位（百万円）

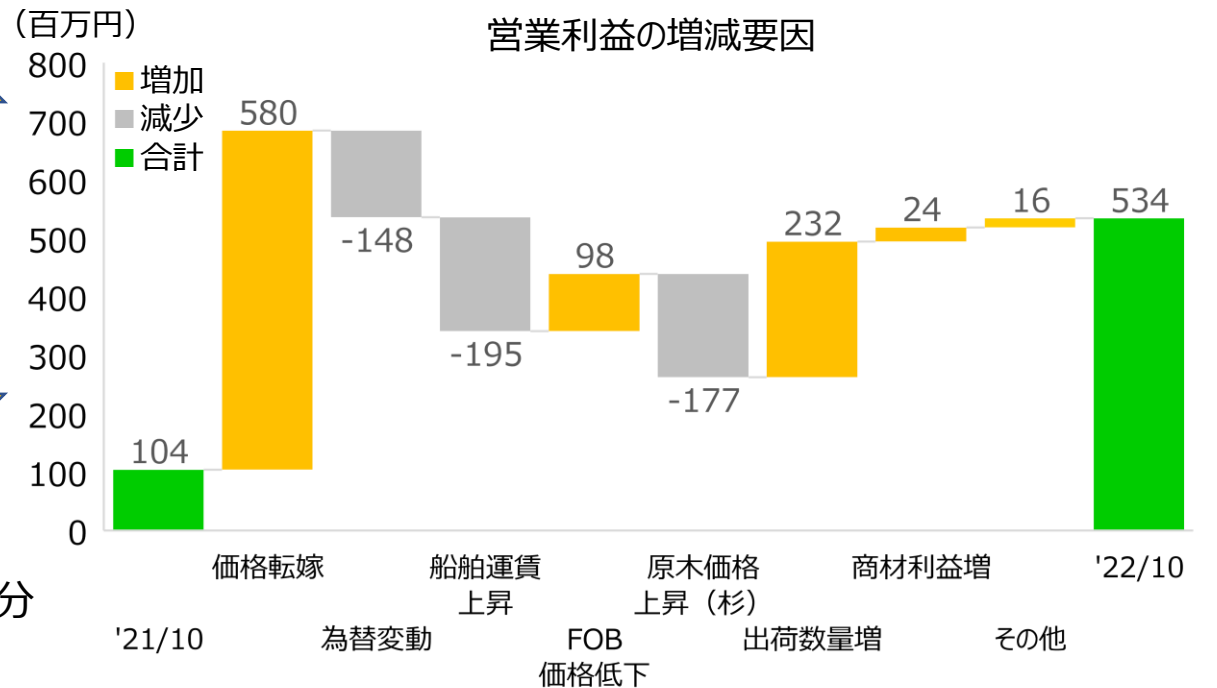
	2021年10月期通期実績			2022年10月期通期実績			増減	
	売上高	営業利益	売上構成比	売上高	営業利益	売上構成比	売上高	営業利益
<b>全体</b>	<b>9,425</b>	<b>229</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,338</b>	<b>770</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,913</b>	<b>540</b>
木材	6,629	104	70.3%	8,039	534	70.9%	1,409	429
ハウス・エコ	1,826	25	19.4%	2,301	103	20.3%	474	77
太陽光発電売電	479	263	5.1%	490	298	4.3%	10	34
ライフクリエイト	399	31	4.2%	422	55	3.7%	23	24
不動産	89	58	1.0%	84	53	0.8%	▲4	▲5
本社	—	▲255	—	—	▲275	—	—	▲20

# 事業の状況①：木材事業

- ◆歩留率の良い（※）国産杉丸太の提案・販売に注力、原材料コストの上昇を販売価格へ転嫁
- ◆建築用集成材向けや大阪万博等大型プロジェクトに対する土木用矢板の出荷好調

単位（百万円）

	2021年10月期 通期実績	利益率（%）	2022年10月期 通期実績	利益率（%）	増減
売上高	6,629		8,039		1,409
営業利益	104	1.6	534	6.6	429



（※）

- ✓ 長さ4 分の木材材積 = [末口の直径 × 末口の直径] × 長さ
- ✓ 国産杉は、末口の直径より元口の直径の方が大きく、その部分（出石→でこく）で野地板等の製品を生産→歩留率が高い

# 事業の状況②：ハウス・エコ事業

◆提案力及び品質等を含めた総合的な競争力向上への取り組みを強化

◆重量鉄骨造建築・システム建築等の案件大型化を図り、引合い及び受注残高は大幅に増加

単位（百万円）

	2021年10月期 通期実績	利益率（%）	2022年10月期 通期実績	利益率（%）	増減
売上高	1,826		2,301		474
営業利益	25	1.4	103	4.5	77
受注残高	1,602		2,828		1,225

## 2022年10月期 建築施工例



民間 重量鉄骨造建築

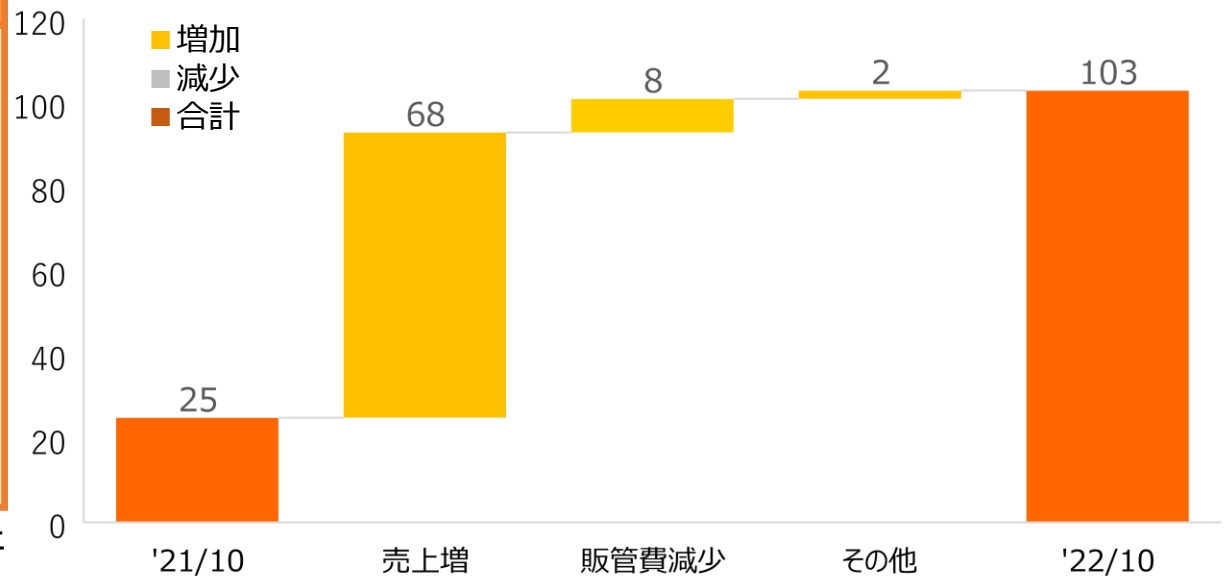


民間 システム建築

Mグレードの認証取得によって内製化が可能となる案件

（百万円）

### 営業利益の増減要因



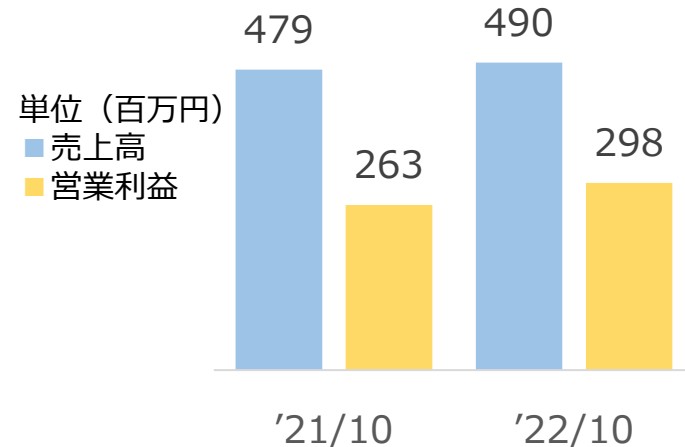


# 事業の状況③：その他：各事業ほぼ堅調に推移

## 太陽光発電売電事業

- ◆天候に恵まれ、順調に発電
- ◆影・落ち葉などの発電阻害要因の排除に注力

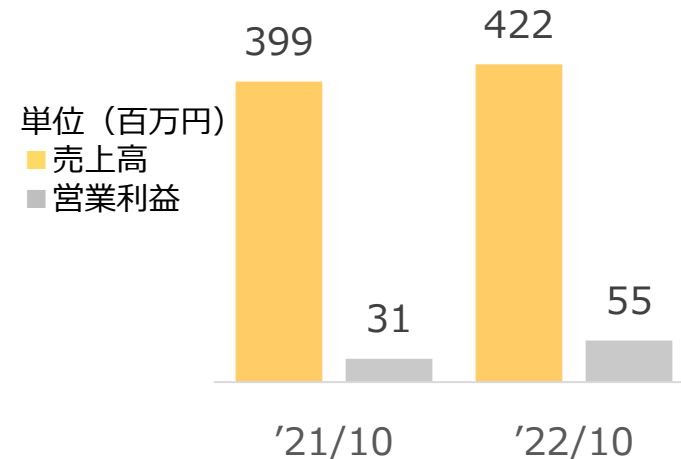
- 大きな修繕もなく安定稼働した結果、売上高の増加分が利益を押し上げ
- 年2回、当社従業員による定期的なメンテナンスを実施



## ライフクリエイイト事業

- ◆ゴルフ場の来場者数は前期比107.3%
- ◆フィットネスは低迷続く

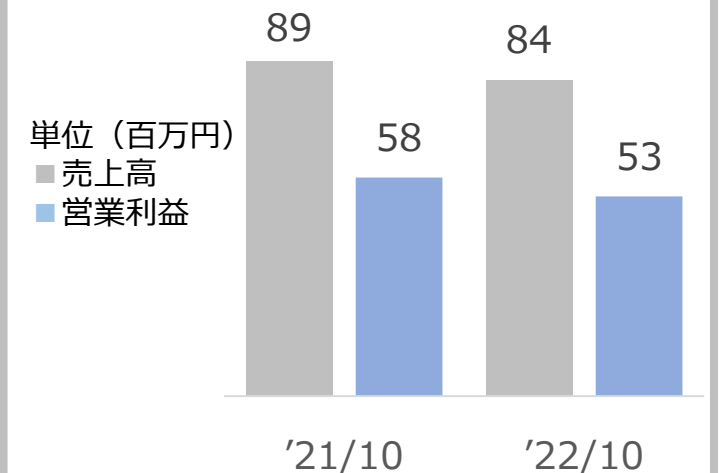
- 【ゴルフ場】
- 県外名門クラブと会員交流提携、メンバー間の相互交流を図る
- 【フィットネス】
- コロナ禍前の水準への回復は更に時間を要する見込み



## 不動産事業

- ◆賃貸マンション4棟の保守メンテナンス実施
- ◆入居率は若干低下

- 今後設備の更新やリノベーションを検討
- 広島県福山市の賃貸マンション1棟を2022年12月に売却



# 要約貸借対照表

- ◆資産の部：売掛債権、減価償却の実施による固定資産の減少（主に木材福山工場の機械装置）
- ◆負債の部：新規調達資金の減少と約定弁済により長期借入金が増加
- ◆純資産の部：当期純利益の計上により利益剰余金が増加

資産の部			負債・純資産の部		
	単位（百万円）			単位（百万円）	
	2022年10月期 通期実績	前期比増減		2022年10月期 通期実績	前期比増減
<b>流動資産</b>	<b>5,925</b>	<b>▲215</b>	<b>流動負債</b>	<b>3,838</b>	<b>▲583</b>
現金・預金	797	286	支払手形・買掛金等	1,056	57
受取手形・売掛金等	4,032	▲964	短期借入金等	1,675	▲423
棚卸資産	800	426	未払法人税等	234	207
その他	295	35	その他	871	▲424
<b>固定資産</b>	<b>7,070</b>	<b>▲558</b>	<b>固定負債</b>	<b>4,834</b>	<b>▲709</b>
有形固定資産	6,898	▲556	長期借入金	4,450	▲659
無形固定資産	17	▲2	その他	384	▲50
投資その他資産	154	0	<b>純資産</b>	<b>4,322</b>	<b>518</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,996</b>	<b>▲774</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>12,996</b>	<b>▲774</b>

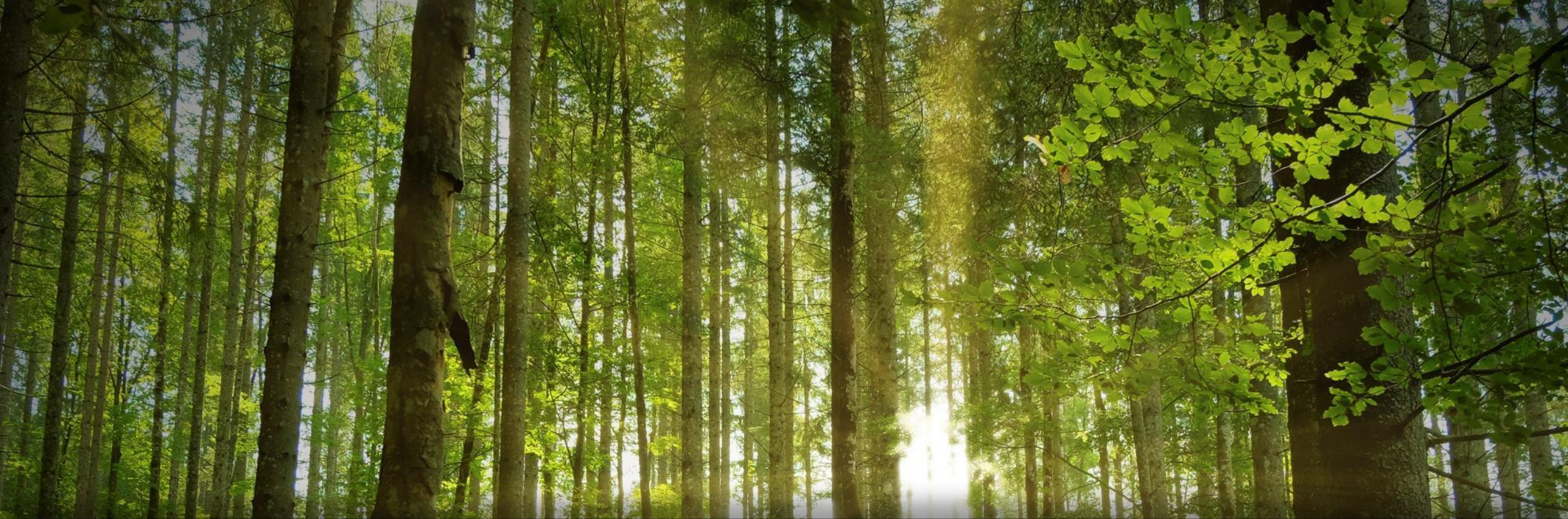
※2022年10月期は、「収益認識に関する会計基準等」の適用によりリース未収入金及びリース前受収益は757百万円それぞれ減少しています。

# キャッシュ・フロー計算書

- ◆税引前当期純利益、売上債権の減少等により、営業活動によるキャッシュ・フローは大幅に増加
- ◆大型設備投資が一巡し、収益が大幅に改善したことによりフリーキャッシュ・フローは大幅に増加
- ◆利益計上により新規資金調達が増加、長期借入金の約定弁済により財務活動によるキャッシュ・フローが減少

単位（百万円）

	2021年10月期 通期実績	2022年10月期 通期実績	増減	主な要因
現金及び現金同等物の 期首残高	522	420	▲102	
営業活動による キャッシュ・フロー	703	1,605	902	税引前当期純利益、売掛債権の減少等により増加
投資活動による キャッシュ・フロー	▲183	▲139	44	有形固定資産の取得によるもの
フリーキャッシュ・フロー	519	1,465	946	
財務活動による キャッシュ・フロー	▲621	▲1,179	▲557	新規資金調達の減少と長期借入金の約定弁済により減少
現金及び現金同等物の 期末残高	420	707	286	

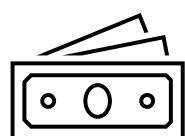


# 03 2023年10月期決算見通し



# 2023年10月期 市況環境見通しと対応方針

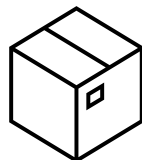
- ◆引き続きNZ松の生産比率を落とし為替の影響を軽減
- ◆輸出拡大による梱包用材の需要復調に向けた生産体制を整備
- ◆原価低減と生産効率の向上等コストダウンにより原材料高に備える
- ◆受注の増加に対し部材（柱、梁、胴縁、階段等）毎に発注できる協力会社を開拓



## 深刻な円安



日銀の異次元金融緩和政策継続から日米金融政策の違いが強く意識され、円安ドル高が加速  
急激な円安によるコスト増は価格転嫁が困難



## 輸出の回復



円安により日本政府は輸出拡大に取り組む企業への支援策を補正予算案に計上予定  
輸出の回復基調を受けて製造業を中心に企業収益や設備投資は持ち直しの動きが続く



## 資源エネルギー 価格等高止まり



ロシア・ウクライナ情勢の長期化により資源エネルギー価格が高止まり  
建設資材の値上がりや人手不足による建築コストの上昇

# 2023年10月期 業績見通し（全体）

◆売上高は堅調に推移、鋼材等の高騰による建築資材価格の上昇や為替変動によるコスト高を見込み、増収減益を予想

◆人員（正社員）は16名増の173名を想定

◆全体で約210百万円の設備投資計画を想定

売上高……11,950百万円（前期比5.4%増）を予想

営業利益……456百万円（前期比40.7%減）を予想

特別利益……124百万円（賃貸用マンションの譲渡……固定資産売却益）を予想

単位（百万円）

	2022年10月期 通期実績	構成比 (%)	2023年10月期 通期業績予想	構成比 (%)	前期比増減
売上高	11,338	100.0	11,950	100.0	611
営業利益	770	6.8	456	3.8	▲313
経常利益	792	7.0	448	3.7	▲344
当期純利益	541	4.8	401	3.4	▲139

# 2023年10月期 業績見通し（事業別）

- ◆木材事業でウッドショックの終焉・急激な為替変動により仕入コスト増加
- ◆'22年10月期の平均為替レートは1米ドル119円、'23年10月期では1米ドル146円を見込む
- ◆'22年10月期は脱・梱包用材として取り組んだCLT材やラミナ材（建築合板材料）の出荷が好調に推移し、売上高・営業利益の増加に大きく寄与、その反動減により23年10月期は減収・減益の見込み
- ◆ハウス・エコ事業は大型案件獲得のための深耕営業の成果が現れ始める。有効見積・引合い件数とも大幅に増加
- ◆'22年10月末の受注残高は前期比約1.8倍（約12億円増）の28.2億円

単位（百万円）

	2022年10月期通期実績			2023年10月期通期見通し			増減	
	売上高	営業利益	売上構成比	売上高	営業利益	売上構成比	売上高	営業利益
<b>全体</b>	<b>11,338</b>	<b>770</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,950</b>	<b>456</b>	<b>100.0%</b>	<b>611</b>	<b>▲313</b>
木材	8,039	534	70.9%	7,564	222	63.3%	▲474	▲311
ハウス・エコ	2,301	103	20.3%	3,402	172	28.5%	1,101	69
太陽光発電売電	490	298	4.3%	477	282	4.0%	▲13	▲15
ライフクリエイト	422	55	3.7%	437	44	3.6%	15	▲11
不動産	84	53	0.8%	68	44	0.6%	▲16	▲8
本社	—	▲275	—	—	▲310	—	—	▲35



04

新中期経営計画

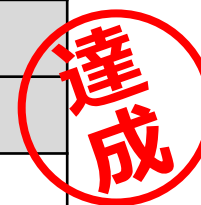
ネクスト  
ステップ  
テン  
「NEXT STEP 10」





# 前中期経営計画（2020年10月期～2022年10月期）の振り返り

CHALLENGE 110 目標数値		
	目標数値	実績
売上高	110億円	113億円
ROE	10%	13.3%



## ◆ 中期経営計画（2020年10月期～2022年10月期）

1年目・・・米中貿易摩擦の激化や新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け各目標数値を下回る

2年目・・・3Qにウッドショック発生。原材料価格の高騰があったものの、販売価格への転嫁が進みウッドショック発生以降、収益は大幅に改善

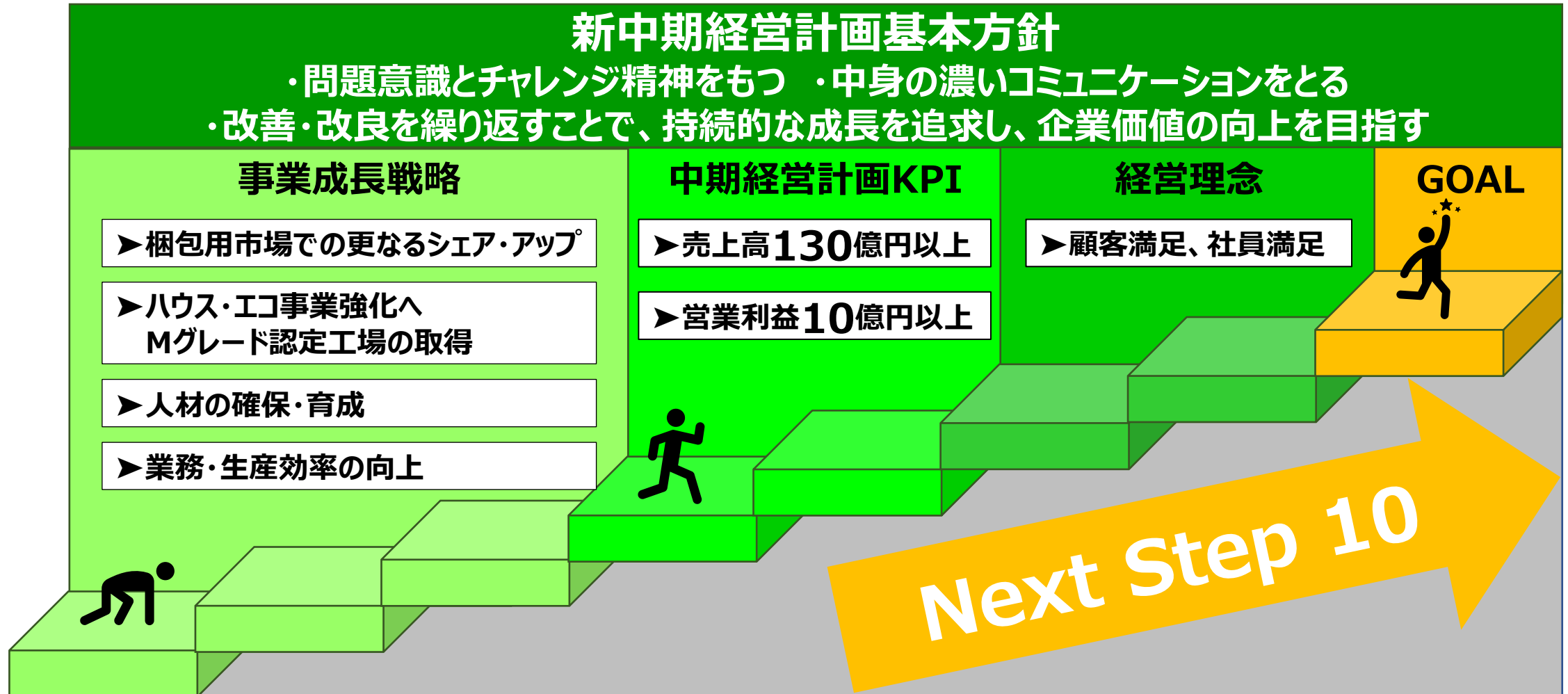
3年目・・・中計2年目3Q以降、木材事業が好調に推移。2回の上方修正を踏まえて中計当初目標の売上高及び各利益の目標数値を達成

単位（百万円）

	2019年10月期 実績値	2022年10月期 実績値	当初目標比 (%)	2022年10月期 (当初目標値)
売上高	9,566	11,338	97.9%	11,580
営業利益	83	770	124.9%	617
経常利益	19	792	132.5%	598
当期純利益	393	541	126.1%	429

# 新中期経営計画「NEXT STEP 10」(2023年10月期~2027年10月期)

- ◆ 梱包用市場での更なるシェアアップ、Mグレード認定工場の取得などで事業を強化し、2027年10月期売上高130億円以上、営業利益10億円以上を目指す



# 新中期経営計画「NEXT STEP 10」の位置づけ

◆ 前中計（CHALLENGE 110）での定着した持続成長トレンドを継続・強化



# 新中期経営計画「NEXT STEP 10」の基本事業戦略

- ◆ハウス・エコ事業においてMグレード認定工場の取得により競争力・収益率の向上を目指す
- ◆木材事業において設備投資も視野に入れ、更なる生産効率の向上を目指す
- ◆全社として、人員不足の解消・組織の若返り（社員給与22/10期対比10%以上UPを目指す）・DX化に注力

## ・人員不足の解消・組織の若返り

ハウス・エコ事業の工務・設計・営業の採用・育成に注力、5年後の'27/10月期には23名増の100名体制へ



・M&A・アライアンスの活用  
・業務の申請・確認・決裁処理を可能な限り電子化する、DX化と新しい仕組み作りの推進を加速



## ・ハウス・エコ事業の強化

'25/10月期にMグレード認定工場を取得、5年後の'27/10月期には単独事業として44億円の売上を計画



## ・木材事業の成長投資

新たな設備投資を視野に福山工場の生産性を'22/10月期比+5%以上の向上を目指す



**05**

## 株主還元・配当方針



# 株主還元・配当方針

## 株主還元の基本方針（23年10月期より）

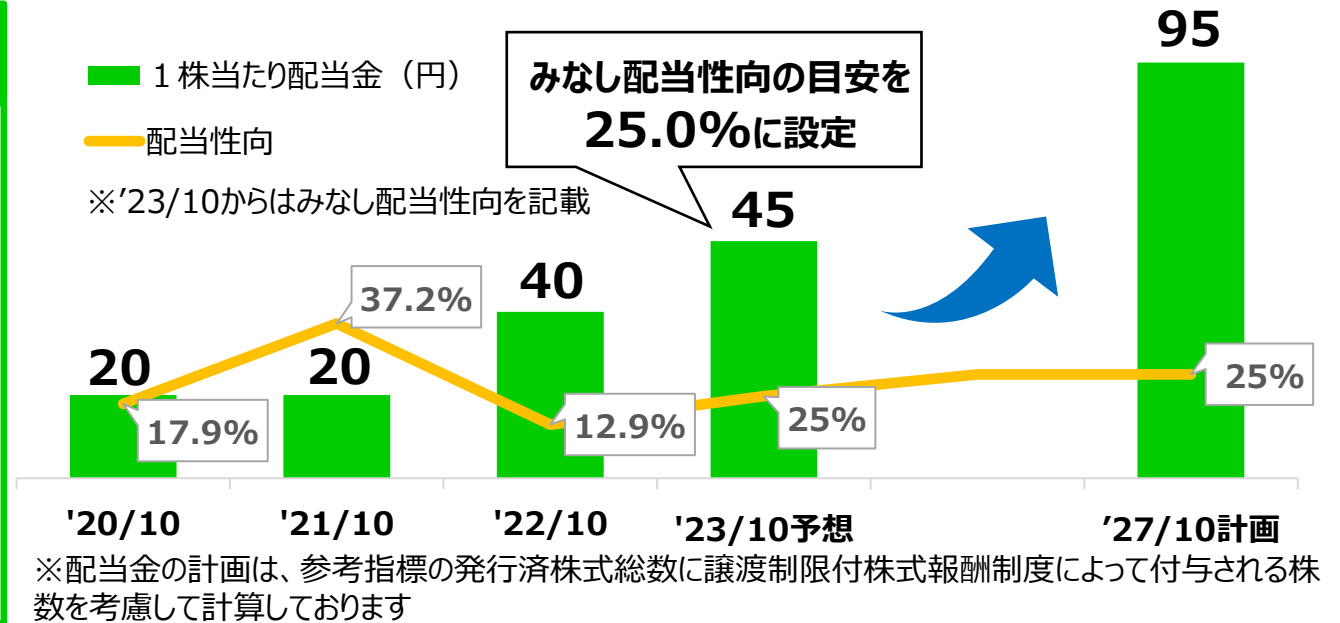
◆安定配当を継続し、業績の見通しや将来の事業計画、経営安定化等のための内部留保を総合的に勘案して決定

・みなし配当性向の目安を25%（※）とする

（※）配当総額 / （（経常利益 × （1 - 法定実効税率））

現時点での法定実効税率は30.5%

・最低配当金額を年間10円に設定



## 【参考指標】

※2022年12月12日終値ベース

株価	1,139円	単元株数	100株
1株当たり配当金（予想）	45円	発行済株式総数	1,753,818株
みなし配当性向	25.0%	最低投資金額	113,900円
配当利回り	3.95%	PER	4.98倍
EPS（23年10月期）	228.61円	PBR（22年10月期）	0.46倍

# 本資料取り扱い上のご注意

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみ全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

IR担当  
窓口



株式会社オービス 経理部

- TEL 084-934-2621 FAX 084-934-2624
- E-MAIL : ir@orvis.co.jp
- URL : <https://www.orvis.co.jp>